

地方鉄道活性化と地域資源活用を目指すコミュニティビジネス創出事業

1. 事業概要

- 地方鉄道の活性化においては、地元住民が移動手段以外にも乗ってくれることや観光客に乗ってもらうことも有効である。
- 地方鉄道の本社・駅舎・車内等を活用し、地域の特産品(農産物、加工品、弁当、おみやげ等)販売事業の展開や、地元住民・観光客がくつろげるコミュニティ・レストラン(またはカフェ)事業を実施する。
- 併せて、観光客向けには、観光情報・飲食店情報の提供、ガイドの紹介等の機能を担う。
- 立ち上げ期のスタッフ確保への支援を行い、軌道に乗るまでのリスクを軽減する。

2. 期待される効果

- 鉄道利用者の増加、地域の賑わい創出や活性化を図ることを期待。
- 離職者、雇い止めされた労働者等の雇用(5名~10名程度)とビジネスリーダー人材の育成、定着

先行事例：奥津軽地域着地型観光研究会 / (特) NPO 推進青森会議

強み

新幹線青森開通(平成22年)
ストーブ列車で有名
斜陽館など名所も豊富
津軽鉄道の支援組織、個人の存在

津軽鉄道

弱み

経営悪化
乗客数の減少
支援組織、支援者の連携不足



津軽鉄道サポーターズクラブ、NPO法人金木元気クラブ、津軽金山焼協同組合など16団体が団結して奥津軽着地型観光研究会を発足。津軽鉄道再生のビジネス提案!!

鉄道のハードを利用したビジネス

津鉄応援直売会による駅構内、社内での季節産直販売(笹餅、干し餅、スルメの販売)
津軽鉄道が、ストーブ弁当など新商品開発
津軽五所川原駅で「つながる絆パーディー」がコミュニティ・カフェ開業準備中(今春目標)

テスト段階では成果大

ソフトの充実

体験リーダー養成講座で観光ガイド15名を養成。単なる観光案内だけでなく、安全管理対策も習得。現在ボランティアで一部テスト案内実施中。

国の雇用支援でスタッフ投入と定着へ
立ち上げ期のスタッフ確保への支援を行い、軌道に乗るまでのリスクを軽減する